



北海道の戦災



空襲被害を受けた釧路市街地(写真:釧路市立博物館提供)

【釧路市の被害状況】

釧路が空襲を受けたのは、終戦1ヵ月前の7月14日から15日で、北大通り、川上町、栄町、末広町、旭町、黒金町、浪花町が罹災。多数の家屋が焼失、倒壊し、焼失面積は約6万坪におよびました。

この空襲による死者は192人で、重軽傷者は143人でした。また、沿岸漁船においても36人の死傷者、行方不明者を出しています。

【本別町の被害状況】

昭和20年(1945年)7月15日の朝は、本別市街地の上空だけ窓が開いたように雲が切れており、そこを狙ったように午前8時ごろから合計47機の米軍艦載機が侵入してきました。

突然の出現で、空襲警報が発せられたときに、市街はすでに攻撃にさらされており、大混乱に陥りました。この攻撃により、市街地は三日三晩燃え続けました。



炎上する本別市街(写真:本別町提供)